

北東アジア港湾局長会議の概要

1. 北東アジア港湾局長会議とは

北東アジア港湾局長会議は、日韓中三国の港湾担当局長が、三国の港湾の発展のため広範に意見交換を行なうとともに、三国の港湾関係者の友好増進に資することを目的として2000年に設立されたもの。三国持ち回りで年1回開催されている。今回は第4回目であり、日本での開催は第1回に続く2回目である。

本会議については、小泉首相より、平成13年11月にブルネイで開催された日中韓首脳会談の席上で、三国間協力のひとつとして今後とも継続・推進していくとの意向が示された。また、今月、バリでの日中韓三国首脳会談の後、発表された「日中韓三国間協力の促進に関する共同宣言」で謳われている「運輸当局の間において貿易の円滑化に関する対話と協力を強化する」もののひとつとして位置付けられるものである。

また、港湾局長会議と併催で、三国の政府関係者、港湾管理者、研究機関、民間企業等の関係者が相互理解と交流を図ることを目的とした国際シンポジウムが開催される。

2. 第4回局長会議の主要議題

- ・各国の港湾を巡る動向の報告と意見交換
- ・共同研究の概要報告
 - 「北東アジアの海運物流コリドールの将来動向」
 - 「港湾建設の技術基準の国際標準化」
- ・新たな共同研究の採択
 - 「北東アジアにおけるクルーズの振興」
 - 「北東アジアにおけるFTZのモデルと港湾投資の振興に関する研究」
 - 「港湾構造物の信頼性設計法に関する研究」
- ・ロシアの参加

3. 関連スケジュール

10月27日(月)	各国代表来日
28日(火)	北東アジア港湾局長会議(東京 三田共用会議所)
29日(水)	新潟へ移動
30日(木)	北東アジア港湾シンポジウム(新潟 朱鷺メッセ)
31日(金)	新潟港視察
11月 1日(土)	各国代表帰国